

まちづくりの課題整理、まちづくりの目標・方向性と取組例について

1 まちづくりの課題整理について

(1) 課題に分類される意見の整理

まちづくり構想策定後、まちづくりの課題に対する様々な対応が行われています。
まちづくりワークショップとまちづくりアンケートにて新たな課題や課題に対して今後必要な取組について、意見収集した内容を整理し、まちづくりの方向性を整理しました。

再設定した課題		課題への取組案 (第1回ワークショップ、アンケートで頂いたアイデア) ※青字：第2回ワークショップの意見	まちづくりの方向性 ※赤字：2013年まちづくり構想からの変更点
1 安心・安全面の充実	(1) 道路・公園等の公共空間のバリアフリー化の推進	バリアフリー化を進めていく必要があります。 ・段差や急勾配のバリアフリー化 ・日陰の創出 ・暑くなりにくい手すりや夏場にも安全快適な歩行空間の整備	1 安心して暮らせるまちづくり 防災・防犯体制を強化すると同時に、住戸の改善、医療・福祉・介護等の充実を図り、長く住み続けられるまちを目指します。
	(2) 防災対策	地域の安心・安全の取組を推進していく必要があります。 ・避難できる場所の確保 ・かまどベンチを設置するなど、防災の観点での広場・公園の活用 ・災害時の備蓄・物資運搬の仕組みづくり	
	(3) 防犯対策	地域の安心・安全の取組を推進していく必要があります。 ・地区内の見守りや送迎サービス ・駐輪場の安全性向上	
	(4) 子育て支援策の充実	子育て支援策の充実を進めていく必要があります。 ・産科・小児科の誘致 ・習い事等の子供の放課後活動の送迎サービス	
	(5) 健康維持策の充実	高齢者の健康維持策の充実を進めていく必要があります。 ・高齢者施設や総合病院の誘致 ・医療相談の場づくり ・温浴施設の誘致 ・ウォーキングやランニングコースなどの設置	
	(6) 歩行者の安全性の向上	道路・歩道を安心して歩けるような対策を進めていく必要があります。 ・歩道の除草などの適正管理 ・狭い歩道の拡幅 ・交通マナーの向上 ・夜間照明の設置による防犯性・回遊性の向上	
2 多世代交流の充実	(1) 多世代の交流の推進	居住者の若い世代、子どものいる世帯の減少が進んでいます。多世代が暮らすまちづくりが必要です。 ・多世代が交流できるイベントやお祭りの開催 ・桜美林大学との連携強化、駅前・商店街・大学を結ぶ歩きたくなる歩行空間の確保 ・SNSによる魅力のPR	2 楽しく交流できるまちづくり 多様な世代やライフスタイルの人達が、気軽に集い、交流することができる場を作り、コミュニティを再生します。
	(2) 住民同士のコミュニケーションの活性化	住民同士のコミュニケーションの活性化の取組を進めていく必要があります。 ・孤立の防止 ・自治会への参加率向上の取組み ・外国人を含む新たな住民とのコミュニティづくり	
	(3) コミュニケーションが自然と促されるような仕掛けのある休息スペース等の充実	コミュニケーションが自然と促されるような仕掛けの導入を進めていく必要があります。 ・交流の場づくり ・カフェなどの誘致 ・高齢者の居場所づくり	

	(4) 多様な活動に対応できる施設の拡充 (5) ボランティアや NPO 等の活動を支援する体制	多くの住民の多様な活動に対応できるまちづくりを進めていく必要があります。 ・ランニング、サッカーやスケートボードなどのスポーツの場づくり ・屋内型スポーツ施設の整備 ・映画館や音楽などの文化活動の場づくり ・企業の誘致やコワーキングスペースなどの働く場の整備 ・レンタルスペースの提供 ・菜園の貸出 ボランティアや NPO 等の活動を支援する体制づくりを進めていく必要があります。 ・ボランティアの仕組みづくり、元気高齢者の活躍の場づくり ・地区内居住者（運転手）による地域交通の運営	
3 利便性の向上	(1) 高齢者等の買い物難民に対する支援など生活支援の充実 (2) 団地内や近隣を回遊するコミュニティバスなど地域の交通対策 (3) 駅や拠点間をつなぐ公共交通の充実	買い物の不便さをなくすための生活支援を進める必要があります。 ・ボランティア等の買い物支援 ・テイクアウトや宅配、移動販売の充実 ・ネット注文などへの高齢者支援 ・駅前から離れた住宅周りの生活利便施設の充実 移動の利便性の向上の取組を進めていく必要があります。 ・地域のバス等の交通網の再編 ・新しい交通手段（モビリティ）の活用 ・シェアカーの増設 ・大型商業施設の誘致により発生が予想される渋滞への対策 移動の利便性の向上の取組を進めていく必要があります。 ・モノレール駅の整備 ・まちの顔となるゲート空間としての駅前広場、バスターミナルの整備 ・バスの利便性向上	3 利便性の高いまちづくり すべての居住者にとって暮らしやすい生活サービスや公共交通を充実させます。
4 まちの魅力の向上	(1) 多様なニーズに対応した施設の整備など居住環境の改善 (2) 魅力的な店舗や利便施設の導入	世帯数が減少しており、空き家が増加しています。特に子どもを含む若い世代が暮らすまちにしていく必要があります。 ・駅周辺の中高層住宅等のニーズに対応した整備 ・子育て世帯向けの大型住宅等の多彩な間取りの提供 ・若年層や学生向けのリノベーションの実施 ・DIY やペットと共生できる住宅の提供 ・エレベーター付きの住宅の整備 ・ゴミ置き場の整備 ・駐車場などの活用 ・ライフステージに合わせた住み替えの促進 魅力的な店舗や利便施設の導入など、まちに活気を与える取組を進める必要があります。 ・大型商業施設の誘致 ・商店街の活性化、駅前と商店街のつながり強化 ・市役所の出張所の設置 ・まちの案内や情報発信の拠点の設置 ・駅前における子育て支援施設の設置 ・コンビニや銀行の誘致 ・大学生や小中高生向けの店舗・施設の誘致 ・昭和レトロのまちづくり ・個性的なレストランやカフェの誘致 ・空家の宿泊体験施設としての活用	4 周辺から訪れたくなる魅力のあるまちづくり 地区外から訪れたくなる、住みたくなる、歩きたくなるような団地まちの魅力を作ります。
5 環境への配慮	(1) 緑豊かな環境を活かしたまちづくりの推進 (2) 環境負荷の低減。自然エネルギーの積極的導入	緑豊かな環境を活かしたまちづくりの推進する必要があります。 ・自然を活かした公園や散歩道の整備 ・みどりの保全や子どもや若い世代の利用促進に向けた広場の適正管理 ・建物集約化や集約化によって創出された空地の緑化の推進 環境負荷の低減や自然エネルギーの導入を進めていく必要があります。 ・エネルギー負荷の少ないグリーンスローモビリティの導入	5 環境を考えたまちづくり 緑があふれ、敷地にゆとりのある住環境を生かしつつ、省エネルギーや省資源対策へも配慮した団地まちを目指します。

2 まちづくりの目標・方向性について

まちづくりワークショップやアンケートの結果を踏まえ、まちづくりの目標・方向性と取組例を整理しました。

